



4月17・18日



“2030ビジョン”全体像 意見交換会

■内容と時間配分

- “2030ビジョン”全体コンセプトの確認 ……20分
～ 基本コンセプトと目指す社会像
- 具体的方向性についての意見交換 ……120分
～ 「まなぶ」「くらす・はたらく」「コミュニティー」
- 今後の進め方に関する意見交換 ……40分
～ World Shift Forum のメッセージ
～ 5月以降の進め方



事前配布資料（その1）

1. 意見交換会の趣旨
2. 目指す姿の確認
 - ・2030年の将来像
 - ・人が生き生きする社会
3. 具体論の方向性
 - ・昨年末時点での纏め資料

1. 意見交換会の趣旨

今年に入ってから、「教育のあり方」に特化してプロジェクトを進めてきましたが4月中旬以降は、全体像の検討を再スタートします。

リスタートにあたり、プロジェクトとして目指す2030年の将来像を再確認するとともに、具体的な方向性についても考え方のレベルを合わせたいと思います。

そこで、昨年12月末の資料をもとにして、意見交換をしたいと考えます。特に、どういう社会像を描くのか、特に、“くらす”、“はたらく”と“コミュニティー”のありよう、またこの3ヶ月間考えてきた、“まなぶ”についても、皆の考え方を揃えていきたいと思います。

また、24日のWorld Shift Forum プレゼンテーションで発するメッセージも共有したいと考えます。

■ プロジェクト活動のご紹介

一般国民(生活者)の視点で知恵を出し合い、誰もが未来に希望を持てるような“2030年の国のありたい姿”を考え、広く共有するとともに実現してゆく活動です。



日本が抱える課題

- ・財政赤字
- ・経済低迷
- ・少子高齢化
- ・医療崩壊
- ・食料/エネルギー低自給率
- ・教育
- ・地球環境問題 etc.

目指す姿を共有しよう

国がどこへ向かうのか

2030ビジョン
国のありたい姿

このギャップを埋めていこう!

現状

ビジョンがあれば、

- ① 皆のベクトルがそろい、判断がぶれなくなる。
- ② 夢と希望が出て、意欲が高まる
- ③ 難しい状況を切り拓くよりどころができる

■ 2010年のプロジェクト活動

① 人が生きる基本である「くらす」、「まなぶ」、「はたらく」の具体的取組みを検討していきます。

2010年	1月	4月	7月	10月	2011年
《検討テーマ》	まなぶ	くらす	はたらく	全体	
公開イベント	◆ ◆ ◆	◆ ◆ ◆	◆ ◆ ◆	◆ ◆ ◆	★ビジョン発信

② 官と民の共創により、皆が知恵を出しあって考え共有する活動を推進します。

STEP1

・ 民間のさまざまな団体が将来ビジョンの検討をスタートする

STEP2

・ 様々なアクターがビジョンを考え持ち寄る

STEP3

・ インタラクティブな議論を経てビジョンを纏めて皆で共有する

※昨年末に共有した基本コンセプトです。

■ 私たちが考える2030年の将来像

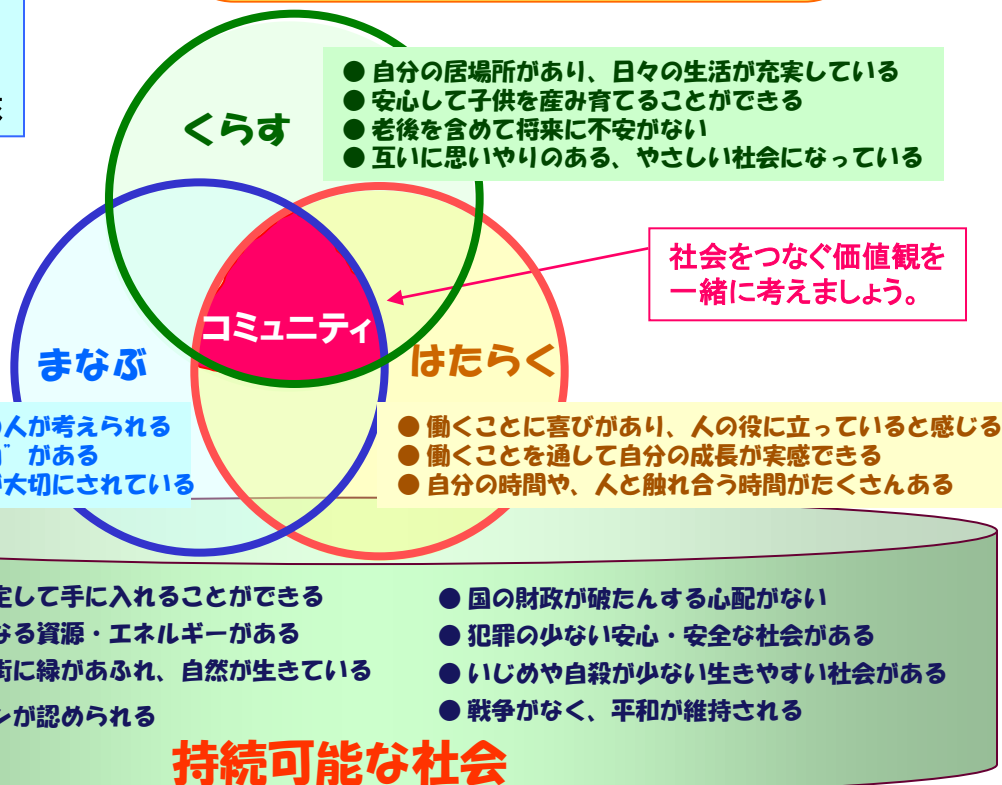
2030 ビジョン

日本に明るい未来を！
皆が希望を持てる
幸せで持続可能な国

世界に認められる国

- ・平和に貢献
- ・環境に貢献
- ・アジア共同体の核

- ・資本主義と社会主義がバランスした社会
- 公平公正で努力が報われる
人を大切にする福祉国家を目指す
- ・農業の再生、自然エネルギーへの転換
- 自給率を高め、循環型システムを導入し
持続可能な社会を目指す
- ・自国に誇りを持ち、世界に貢献できる
- 伝統的な文化や平和思想を大切にし
多様性を認める社会を作り出す



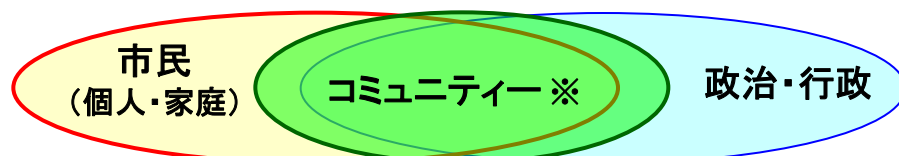
■ 目指す姿を実現するための取組み

目指す姿を実現するためには、政治・行政に期待するだけではいけません。

市民自らが価値観とライフスタイルを変えていくことも必要です。

また、町内会、地域、NPOやNGO、さらには社会の一員である企業もCSRの概念を超えて、広義のコミュニティーとして活動が欠かせません。

★ “2030ビジョン”プロジェクトでは、特に、「市民」、「コミュニティー」として
どうありたいか？を重点的に考えていきます



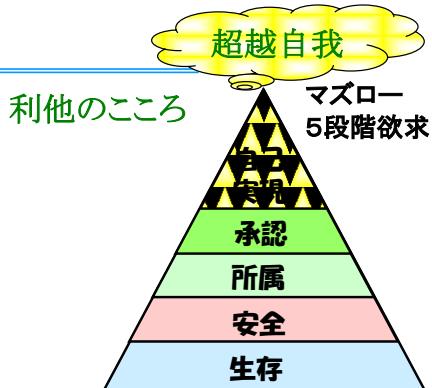
※ここで言っている「コミュニティー」は広義であり、「新しい公共」だけでなく、地域活動や企業も包含した概念です。

※昨年6月に共有した 目指す社会と人の生き方です。

人が生き活きる社会づくり

どんな社会を目指すか？

皆が希望を持てる
幸せで持続可能な国



将来に不安がない

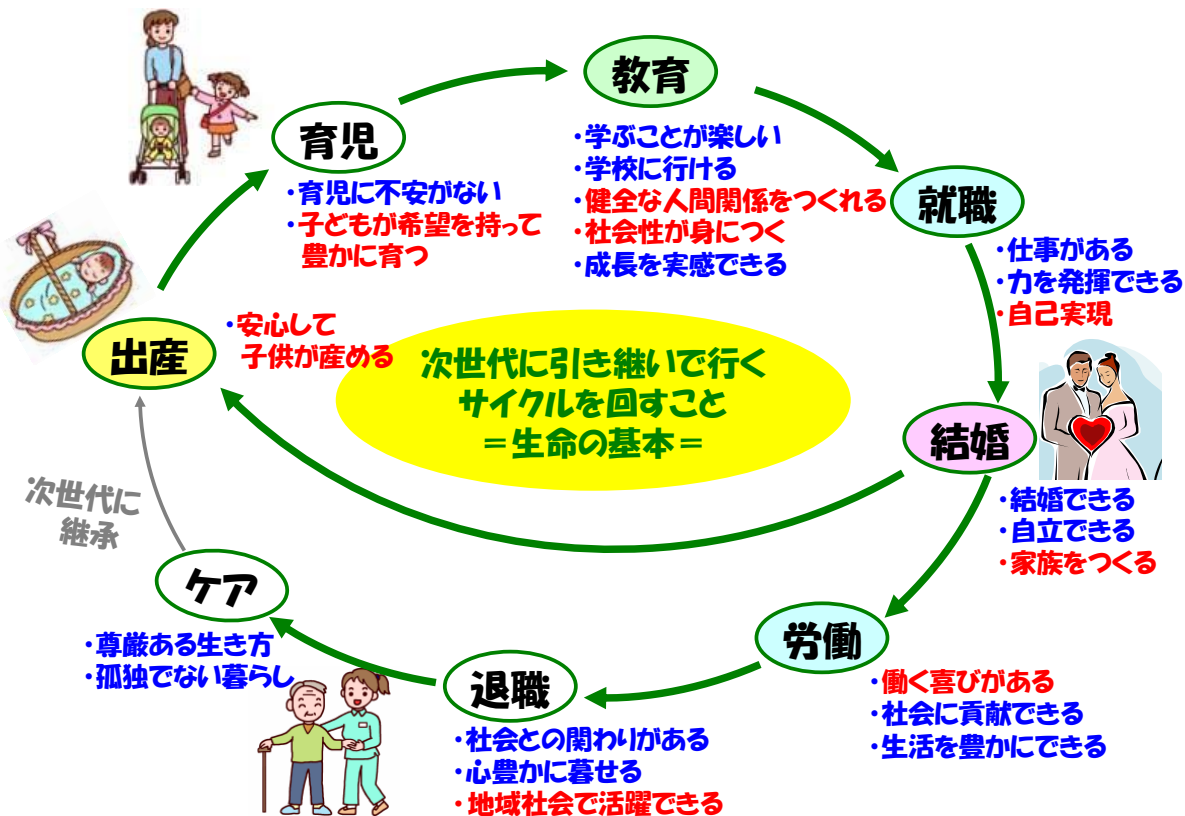
- 安心して子どもを産み育てることができる
- 食えなくなるという不安がない
- 老後に不安がない

皆が幸せを感じる

- 毎日の生活が充実している
- ココロにゆとりがある
- 人の役に立っていると感じられる

一人ひとりの生き活きが、街の生き活き、社会の生き活き

人の生き活き： ライフステージごとの“あいたい姿”



※ 17・18の意見交換会ではこのような資料も参考にしながら考え方を整理します

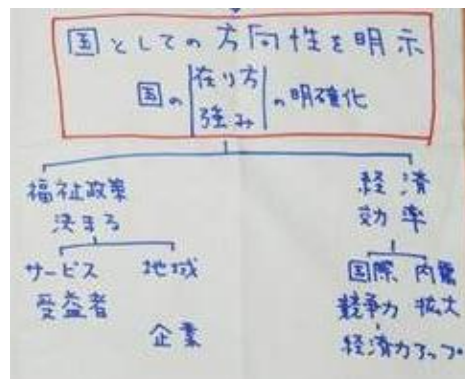
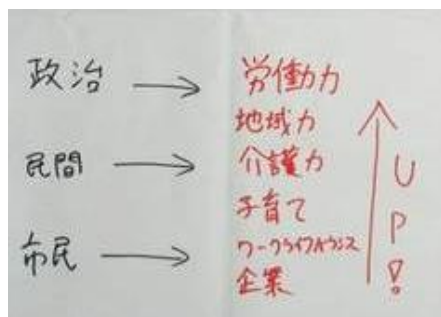
● 福祉の充実と財政との両立

【基本コンセプト】

- ◎ 人を活かすことで経済を活性化し、財政バランスも改善し、将来への不安をなくす
- ◎ 多様な働き方、生き方が認められ、何度でもチャレンジできる社会をつくる
- ◎ 成功モデル（ロールモデル）があり、人々が目指す姿がみえる社会
- ◎ 超少子高齢化社会の先進的なトップモデルになる
＝ ゆとりあるライフスタイルを実現できる国 ＝

【実現に向けた方策案】

- 人を活かすことで経済を活性化する
 - ・ 働く場での自由度を増やし、やる気を増す
 - ・ 時間を短縮して気持ち良く働けるようにする
 - ・ 自由な時間を活かして、次へのチャージをする
 - ・ 人びとが支え合って、価値を生む社会とする
 - ・ 残業ゼロ+週休2日の徹底
- 多様な働き方を実現する
 - ・ 会社に行かなくても良い働き方
 - ・ 雇われるのではなく 平等のパートナーとして
ワークとライフのバランスは自分で決める。
- 人へのサービスに投資、出資する
 - ・ 子育ては最大の社会資本投資である
 - ・ 医療介護は、雇用と産業の創出である
 - ・ 年金は使われれば社会に還元される金
⇒ 貯蓄に回せないカタチで支給する
(高齢者の安心感を高めることも同時に必要)
- 経済成長しなくても、財政赤字を減らす
 - ・ 浪費をなくして支出と収入のバランスを取る
 - ・ 資産家から税で回収する⇒固定資産累進税
 - ・ 高額所得者から還流 ⇒ 物品税
⇒ 持続可能社会税
- 役割に応じそれぞれのセクターが努力
- 男性の価値観に支配された社会から抜け出す
 - ・ 女性だけのコミュニティを上げる
→ 周りのコミュニティと繋がる
 - ・ ママの働くが自由で楽しいものとする
 - ・ 働きたい主婦が働ける社会にする
 - ・ 男女平等基本法を進化させて遵守
(ペナルティ制度)
 - ・ 女性の議員比率を30%以上に高める
- 社会の子育て力を高める
 - ・ 育児休暇が常態的に取れる仕組み
 - ・ 地域が一緒になって子育てできる環境
 - ・ 出産、育児、教育無償化 ⇒ 現物給付
 - ・ 家族関係支出を10兆円規模に
- 社会の医療介護力を高める
 - ・ 介護休暇が当たり前に取れる仕組み
 - ・ 地域が一緒になって介護できる環境
 - ・ 健康な体を保つ仕事や役割がある
 - ・ 病気のレベルに応じた受診マインド
 - ・ 地域に必ず医療機関がある
- 国としての方向性を明確にする
＝ 国の強みを明確にしたうえで＝



※ 17・18の意見交換会ではこのような資料も参考にしながら考え方を整理します

● 生き生きしたコミュニティをどうつくるか？

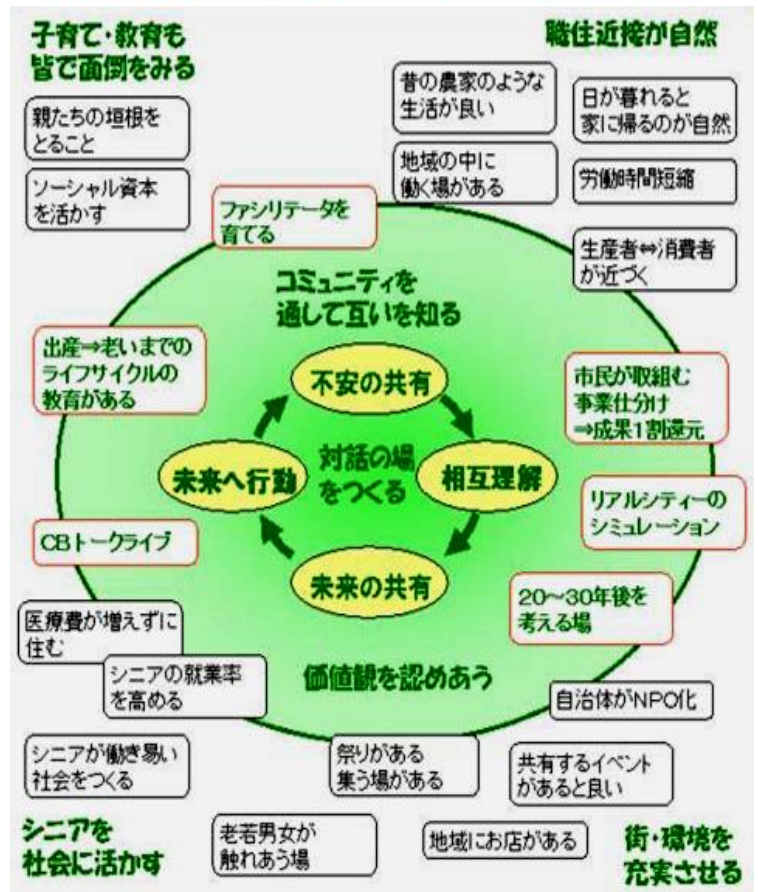
【基本コンセプト】

- ◎ 地域コミュニティの対話の場を通して互いを知り、支えあう気持ちを持つ
- ◎ 職住近接で街・環境を充実させる（自然豊かなゆとりある暮らし）
- ◎ シニアが街に出て、街のために働く⇒生きがいが出て病気にもならない
- ◎ 街の将来を自分たちで考え、自分たちで経営する意識を持つ

【実現に向けた方策案】

- ◎子育て・教育も皆で面倒をみる
 - ・地域コミュニティーを活かす
 - ・親たちの垣根をとること
 - ・ソーシャル資本をもっと活かす
 - ・シニアの知恵や時間を活かす
- ◎職住近接が自然
 - ・日が暮れると家に帰るのが自然な姿
 - ・労働時間を短縮すれば良い
 - ・地域の中に働く場があればよい
 - ・昔の農家のような生活がよい
 - ・生産者⇔消費者が近づく
- ◎街・環境を充実させる
 - ・地域にお店がある
 - ・祭りや共有するイベント、集う場がある
 - ・自治体がNPO化
 - ・市民が取り組む事業仕分け
→成果の一割は住民に還元
(地域通貨などで)
- ◎シニアを社会に活かす
 - ・シニアが働きやすい社会として、
シニアの就業率を高める
 - ・老若男女が触れ合う場をつくり、
出産⇒老いまでのライフサイクル
を学ぶことができる。
 - ・シニアの就業率が高いと医療費も減る

「若者・子ども・年よりがツナガリのある街」



- ◎ 地域で支えあう
 - ・地域に根ざした社会作り
 - ・地域資源を外から見つける（若者視点）
 - ・東京と同等化せず地域特性を活かす
 - ・コミュニティビジネスを活かす

- ◎ 住みやすい地域（社会）を作るには教育が大切
 - ・生活に根付いた基本的な教育を子どもの時から
～ゴミの分別、環境への意識
 - ・地域に対する愛着も生まれ、地域の絆を伴った、
より住みやすい地域になっていくのではないかと。

※ 17・18の意見交換会ではこのような資料も参考にしながら考え方を整理します

“2030ビジョン”プロジェクトでは、“学ぶこと自体が楽しく”、“社会や人への関心を高め”、“未来に夢や希望を抱くことができる”教育を目指したいと考えています。

そして20年後の2030年が、新しい価値観で自律的に行動するイノベーターで溢れている活気ある日本になって欲しいと考えます。

目指す教育の姿 : 「豊かな人格と社会で役に立つ力を形成する」

<p>育 成 像</p>	<p>「生きる力」=「自ら考える力」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 世の中について考える力 <ul style="list-style-type: none"> ・自分が望む社会を思い描く力 ・多様な価値観を認め、尊重する力 ● コミュニケーションする力 <ul style="list-style-type: none"> ・人の気持ちや考えを理解する力 ・他者と協力してものごとを進める力 ● データや情報を分析する力 <ul style="list-style-type: none"> ・問題を自分で感じ、考える力 ・必要な情報を収集し判断できる力 ● 問題を発見し解決できる力 <ul style="list-style-type: none"> ・問題の本質を見抜く力 ・自ら実践する力
<p>プ ロ セ ス</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学ことが楽しい <ul style="list-style-type: none"> ・幼い時から学ぶことに喜びがある ・学ぶことで自分に自信が持てる ○ 教育機会が公平に提供される <ul style="list-style-type: none"> ・親の収入によって差がつかない ・公教育で学びが保障される

実現のための取組みの方向性

教育の仕組み

◎ 受験をゴールとした教育でなく
社会で役立つ力を育む

- ・記憶、処理能力中心の学習を減らし
調べて考える学習を基軸に据える
- ・世の中について考える学習を重視する
- ・「将来の社会」を考える協働の場をつくる

◎ 多様性を重視する

- ・一人ひとりの特性、進度に合わせた教育
- ・地域が連携し様々な体験の機会を提供する
- ・大人が範を示す(多様なロールモデル)

◎ 公教育の充実

- ・公教育の教員の質と量を高める
- ・社会人経験重視、塾教師を取り込む
- ・地域の大人も教育に参加する
- ・就学前～小／中学校～高校 無償化

◎ 就学前教育の充実

- ・幼児教育と小学校教育の一体化
- ・就学前教育100%実施

社会の価値観

◎ 教育が国の基本という合意の形成

- ・教育予算への資源配分を大幅に増やす
- ・家庭と地域コミュニティが教育に参加する
- ・労働時間を減らし“親子”の時間を増やす

◎ 学歴至上の考え方を変える

- ・多様な能力を尊重する
- ・学歴と仕事／給与とのデカップリング